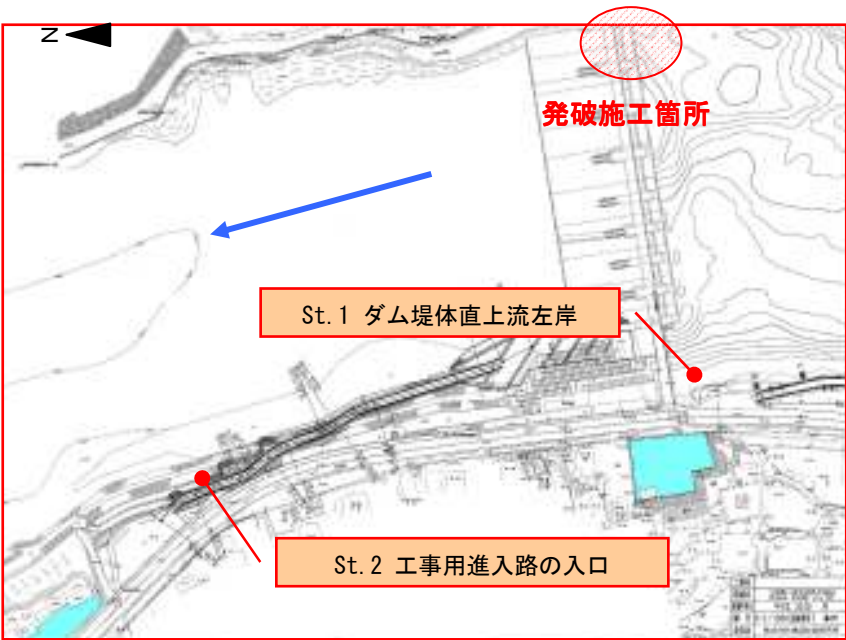


2) 発破騒音・振動調査 (②振動)

評価項目	視点	平成 25 年度の調査結果概要	評価概要
発破振動の影響	工事の影響把握 ・火薬学会規制値との照合 ・交通振動(大型車)との比較	・発破振動は、St.1 が 52dB、St.2 が 38dB であった。 ・国道を通過する大型車 10 台ピーク平均は、St.1 が 54dB、St.2 が 47dB であった。	・今回の発破振動は、 <u>St.1 が 52dB、St.2 が 38dB であり、両地点ともに管理値※注 75dB を大きく下回る値であった。</u> ・国道を通過する大型車 10 台ピーク平均 (47～54dB) と比較すると、St.1 及び St.2 とともに <u>大型車通過時の振動と同程度の値</u> であった。



※注 管理値:火薬学会の提言値を踏まえて設定した数値

振動調査結果 単位: dB

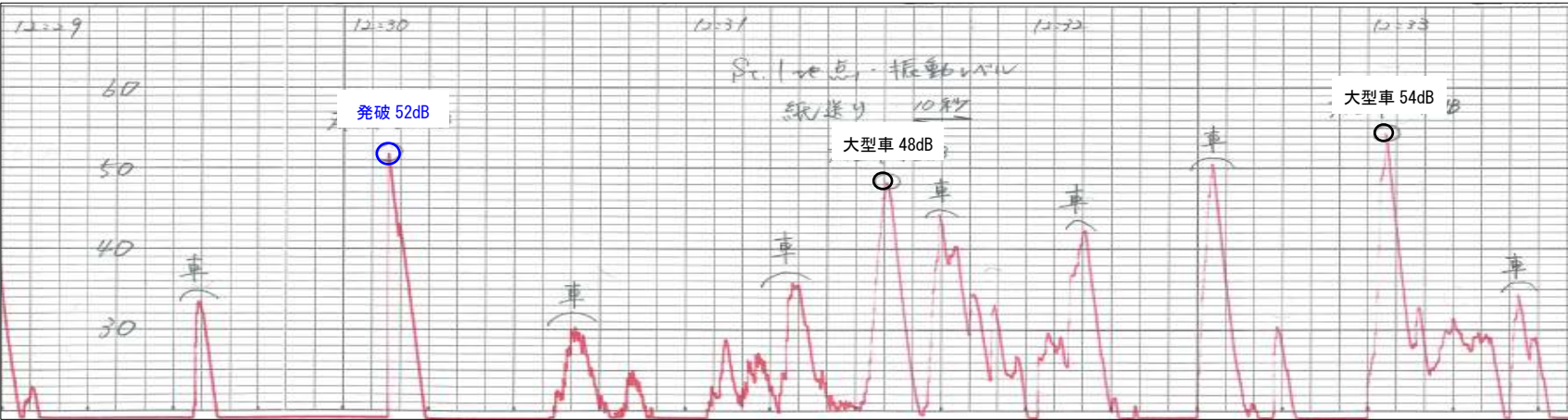
調査地点	発破作業 (装薬量:4kg)	大型車ピーク値 (10台平均)
	12:30	12:00～13:00
St.1 ダム堤体直上流左岸	52	54
St.2 工事用進入路の入口	38	47

気象庁震度階級関連解説表(平成 8 年 2 月)

振動レベル (dB)	震度	階級	人間の感覚
55 以下	無感	0	人は揺れを感じない。
55～65	微震	1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
65～75	軽震	2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。 眠っている人の一部が目覚めます。
75～85	弱震	3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。 恐怖感を覚える人もいる。
85～95	中震	4	かなり恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。 眠っている人のほとんどが目覚めます。
95～105	強震	5 弱	多くの人が身の安全を図ろうとする。 一部の人は行動に支障を感じる。
		5 強	非常な恐怖感を感じる。 多くの人が行動に支障を感じる。
105～110	烈震	6 弱	立っていることが困難になる。
		6 強	立っていることができず、這わないと動くことができない。
110 以上	激震	7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。

【St.1 地点 振動レベル波形代表例 (発破作業)】

発破振動の火薬学会規制値：75dB



【St.2 地点 振動レベル波形代表例 (発破作業)】

発破振動の火薬学会規制値：75dB

